

「キャンドルのつどい研修」実施要領

国立江田島青少年交流の家

1 内容

燃える炎を見つめながらしみじみと語り合い、歌い、踊り、ゲームを楽しみながら、華やかで感動に満ちたときをすごす。

2 ねらい

- ・皆で炎を囲み、楽しみ、親睦を深める。
- ・協調性を高める。
- ・今日を反省し、明日への活力をつくる。

3 対象者

小学校第 5 学年以上とする。

ただし、保護者又は引率者と組んで活動する場合は小学校第 4 学年以下も可能。

4 研修人数及び研修場所

場所	適正人数（目安）
体育館	10～200 人程度
講堂	10～150 人程度
武道館	10～100 人程度

※10 人以上で実施可。

※いずれの場所も飲食は禁止。水分補給は可。

5 実施時期、研修時間

（1）実施時期 通年

（2）研修時間 18 時 00 分～21 時 00 分

※準備作業を開始までにしておく。

※後片付けは 21 時 30 分までに行う。

6 準備物

（1）個人：□動きやすい服装 □体育館シューズ（講堂の場合は不要） □飲み物（必要な場合）

□スタンプに使用するもの（必要な場合） □個人用燭台（アルミホイルで作成）

※個人用燭台は、利用団体が事前に用意しておく。又は、当日アルミホイルを持参したうえで作成する。

（2）引率者：□マッチ（ライターなど） □小ロウソク（ボランティア棟 1 F 売店 イシダスポーツでも販売 1 本 4 円、1 箱 約 210 本 800 円） □携帯電話 □救急バッグ（貸出可）

□懐中電灯（移動用） ※武道館で実施の場合

（3）交流の家：□コードリール □アンプ □ワイヤレスマイク □バケツ

□キャンドルのつどいセット（大ロウソク・ロウ削り・火の神用燭台）

各実施場所…□大燭台 □シート □放送設備（武道館は無し）



大燭台



火の神用燭台





ロウ削り



アルミホイル等で作成→個人用燭台 ※参考④参照



7 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「キャンドルのつどい研修」プログラムをもとに、団体がキャンドルのつどいの指導・安全管理等を行う。

(2) 引率者の配置・人数・役割分担

活動団体で次の役割を持たせる。(小規模の団体は担当を兼ねることができる)

- ① 総括責任者（全体の総括、緊急時の連絡担当）・・・1人
- ② 指導担当者（指導、用具の準備、安全管理）・・・1人以上
- ③ 監視担当者（火の管理、安全管理）・・・1人以上
- ④ 救護担当者（健康観察・応急処置・AEDの場所確認）・・・1人以上

(3) 事故発生時の措置

緊急の場合は、総括責任者は携帯電話で交流の家に連絡を行う。

8 展 開

(1) 「物品利用希望書」の提出

団体は、「物品利用希望書」に必要事項を記入し、入所日の10日前に交流の家へ提出する。

(2) 実施前

- ① 指導担当者は、17時00分までに事務室から必要に応じてコードリール、アンプ、ワイヤレスマイク、バケツ、火ばさみ、キャンドルのつどいセットを受け取る。
- ② 実施場所のコンセント等の確認をする。
- ③ 実施場所にシートを敷き、大燭台の設置を行う。(参考①参照、大燭台は重いので注意。)
- ④ 大燭台に大ロウソクを立てる。※短いロウソクは事務室で長いロウソクに交換する。
- ⑤ 火の神用燭台に大ロウソクを立てる。

※小ロウソクを使用する場合、団体がロウソクを持参し、アルミホイル等で個人用燭台を作成・使用する。または、ロウが落ちない工夫がなされた燭台の持ち込み可。

(3) 事前指導

集合場所：体育館、講堂で実施の場合・・・各実施場所

武道館で実施の場合・・・かんぽラジオ体操広場(雨天時：ピロティ)

(指導担当者)

- ① グループ毎に整列させる。
- ② 救護担当者に健康観察をさせる。

(4) 指導担当者は目的、注意事項を説明する。

〈注意事項〉

- ① けが、体調が悪くなったら、引率者に連絡する。
- ② シートや床にロウをたらさない。
※床がじゅうたんの会場は特に注意する。
- ③ 武道館への移動は、暗いので足元に気をつける。(溝に注意)

(5) キャンドルのつどい

(例)

第1部

- ① 入場
- ② 歌「遠き山に日は落ちて」
- ③ 火の神入場→火の神の言葉→点火
- ④ 歌「四季の歌」
- ⑤ 営火長のことば（火にまつわる話）

第2部

歌、スタンプ、ゲームなどで盛り上がる

第3部

- ① 歌「一日の終わり」
- ② 沈黙（黙って火を見つめる）
- ③ 誓いの言葉（各班代表、各クラス代表など）
- ④ 営火長終わりの言葉
- ⑤ 歌「今日の日はさようなら」
- ⑥ 退場

※監視担当者は大燭台のロウソクの火が消えたらつける。

(6) 事後指導

(指導担当者)

- ① 救護担当者に健康観察をさせる。
- ② まとめをし、解散する。
- ③ キャンドルのつどいの研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。
※物品の破損等が見られる場合は、その顛末を速やかに交流の家に届け出る。

(7) 片付け

監視担当者は次の方法で片づけを行う。

- ① ロウソクを消火した後は、水をためたバケツの中に入れ、完全に消火する。
(完全に消火したら水を切り、小ロウソクは持ち帰る。大ロウソクはキャンドルのつどいセットに片付ける。)
- ② 床及びシートに落ちたロウをロウ削りでとる。
- ③ シート、大燭台、所定の場所へ片付ける。
- ④ 火の神用燭台、ロウ削り、大ロウソクはキャンドルのつどいセットに入れ、事務室に返却する。
- ⑤ 会場をきれいに掃除する。

9 連絡先

国立江田島青少年交流の家

電話番号

0823-42-0660 (代表)

0823-42-0661 (プログラム担当係)

0823-42-0663 (夜間)